

## あ と が き

この美郷村総合学術調査報告書をもって、『阿波学会紀要』は第50号を迎えることとなった。阿波学会は、自然・人文・社会分野にわたる徳島県内20余りの研究団体から組織された学術団体で、半世紀もの長い期間にわたって合同で調査研究活動を実施し、その成果を紀要（総合学術調査報告書）として刊行してきた。このような取り組みは全国的にも珍しく、『阿波学会紀要』に掲載されてきた様々な学術情報・研究成果は県内外の研究者からも高く評価されてきている。こうした阿波学会の活動を支えてくれたのは、徳島県や徳島県立図書館（事務局）、関係市町村ならびに地域住民の方々、さらには会員諸氏であり、関係機関・関係各位に深く感謝申し上げるところである。

ただし、『阿波学会紀要』が、当初から現在のような総合学術調査報告書として刊行されてきたわけではない。今回50号を記念して本誌末尾に掲載した「阿波学会紀要・調査報告書 総目次」をご覧いただければわかるように、昭和29年（1954）3月に発刊された『徳島県郷土研究論文集』は、その前年12月に開催された研究会でのテーマ・地域とも異なる発表内容を中心にまとめられたものであるが、阿波学会紀要の号数は、この論文集をもって第1号としている。詳細は50周年記念事業として発刊予定の『阿波学会の50年（仮称）』に譲ることにするが、現在のような総合学術調査報告書としての体裁を整えたのは第11号（鳴門）の『郷土研究発表会紀要』からである。

以後、『郷土研究発表会紀要』第34号（板野町）まで、A5判の学術誌として事務局の徳島県立図書館に編集作業を一任してきたが、第35号（上那賀町）より湯浅良幸編集委員長の下に編集委員会を新たに設置し、判型をB5判に改めた。第39号（三好町）から第46号（神山町）までは石井愷義氏が編集委員長を務め、両委員長の下に煩雑な編集作業や編集規定の策定など、紀要の質的向上に努めてきた。この間、第40号（由岐町）からは名称を『阿波学会紀要』に変更している。第47号（相生町）からは平井が編集委員長を務め、第48号（佐那河内村）より判型をA4判に変更するとともに、「阿波学会紀要原稿作成・投稿規定」を掲載した。

紀要第35号以降、阿波学会の所属団体からは、延べ20名以上にも及ぶ方々に紀要編集委員として参加いただいていた。また現在は、本年12月4日（土）に記念行事を予定している50周年記念事業の一つとして、これまでに発刊された紀要のデジタル化についても、拡大編集委員会を組織して取り組んでいる。紀要・拡大のいずれの編集委員もボランティアで、両委員会の編集委員には時間を割いて協力いただいております。この場を借りて感謝申し上げます次第である。

なお、本誌で取り上げた美郷村は、本年（平成16年）10月1日をもって鴨島町・川島町・山川町と合併して新たに「吉野川市」となる予定で、ここ1～2年の間に県内他市町村でも広域合併が進むことになる。「阿波学会」が産声を上げた昭和29年当時も町村合併が進んだ時期である。50年を経て、期せずして歴史が繰り返すことになるが、編集委員会としては今後とも「地域と歩む」阿波学会の一翼を担っていきたいと考えている。関係機関・団体ならびに会員諸氏のますますのご協力をお願いするところである。

（平井松午）

阿波学会編集委員会

委員長	平井 松午	副委員長	石田 啓祐		
委員	石尾 和仁	小川 誠	近藤 孝造	仙波 光明	
	中野 真弘	松浦 一	村上光太郎	和田 賢次	